

1. 件名：新規制基準適合性審査に関する事業者ヒアリング（島根2号機設計及び工事計画）【364】
2. 日時：令和5年1月18日 13時30分～16時50分
3. 場所：原子力規制庁 9階B会議室（TV会議システムを利用）
4. 出席者（※・・・TV会議システムによる出席）

原子力規制庁：

新基準適合性審査チーム

津金主任安全審査官、服部(靖)安全審査専門職、植木技術参与、  
山浦技術参与

技術基盤グループ 地震・津波研究部門

藤原技術研究調査官、堀野技術参与※

事業者：

中国電力株式会社

電源事業本部 担当部長（原子力管理） 他10名※

中部電力株式会社

原子力本部 原子力部 設備設計グループ 担当※

電源開発株式会社

原子力事業本部 原子力技術部 設備技術室 担当※

## 5. 要旨

(1) 中国電力株式会社から、島根原子力発電所2号機の設計及び工事の計画認可申請書のうち、耐震性に関する説明書（横形ポンプの耐震計算書、動的機能維持の詳細評価について、波及的影響に係る基本方針等）について、令和4年12月14日及び令和5年1月12日の提出資料に基づき説明があった。

(2) 原子力規制庁から、主に以下の点について説明等を求めた。

【動的機能維持の詳細評価について】

- 横形ポンプの動的機能維持に係る「詳細検討方針」のうち軸継手の検討方針について、各ポンプの構造及びスラスト荷重の負担部位を確認し構造ごとに説明すること。

【波及的影響に係る基本方針（下位クラス配管に係る波及的影響評価の考え方について）】

- 配管の弾塑性応答解析評価（相当ひずみ振幅、疲労累積係数の算出）の詳細な内容を説明すること。また、配管の弾塑性応答解析評価フローにおいて、「発電用設備規格 設計・建設規格 第I編 軽水炉規格

事例規格「弾塑性応答解析に基づく耐震Sクラス配管の耐震設計に関する代替規定」(JSME NC-CC-008)」(以下「事例規格」という。)を適用している箇所を明確にして説明すること。

- タービン補機海水系配管(750A, STD)の弾塑性応答解析で用いる物性値について、事例規格に基づき設定している条件を明確にして説明すること。
- タービン補機海水系配管(750A, STD)の弾塑性応答解析評価における最大相当ひずみ振幅の評価(STEP1 評価)及び疲労累積係数の評価(STEP2 評価)について、実施した評価の内容を詳細に説明すること。また、STEP2 評価における疲労累積係数の算出方法の詳細について、整理して説明すること。

(3) 中国電力株式会社から、本日説明等を求められた内容について了解した旨の回答があった。

## 6. その他

提出資料：

なし